

令和6年度推薦入学者選抜合否判定基準

1. 各学科の推薦募集人員と通学区域

学科	募集人員	通学区域
国際文科	募集定員（80名）の 30%程度＋特別枠5%以内（20～32名）	県全域
理数科	募集定員（80名）の 30%程度＋特別枠5%以内（20～32名）	県全域
普通科	募集定員（80名）の 20%以内＋特別枠5%以内（20名以内）	①島尻学区（豊見城市、糸満市、南城市、 八重瀬町、与那原町、南風原町） ②通学区域外に関しては、募集人員の10% （2人）以内

※特別枠の趣旨

以下の生徒像に合致する者を、募集定員の5%を超えない範囲で合格させる。

- ① 国際文科：本校の教育目標及び学科の目標に合致する者で、極めて優秀な外国語能力（英語検定2級以上、中国語検定3級以上又はそれに相当する能力）を有する者又は特に成績上位にある者。
- ② 理数科：本校の教育目標及び学科の目標に合致する者で、極めて優秀な理系研究における成果（全国大会での受賞又はそれに相当する研究内容）を収めている者又は特に成績上位にある者。
- ③ 普通科：本校の教育目標及び学科の目標に合致する者で、特に成績上位にある者。

2. 出願資格

令和6年3月に沖縄県内の中学校を卒業見込みの者で、推薦入学志望学科に対する目的意識が明確であり、かつ当該学科への興味、関心及び適性を有する者。

3. 出願要件

- (1) 県が定めた「自己表現」または「個性表現」の要件を満たしていること。
- (2) 上記(1)とともに、評定平均が各学科の以下の要件を満たしていること。

学科	条件
国際文科	英語の評定平均が4.0以上あり、かつ全体の評定平均が4.0以上あること。
理数科	数学及び理科の評定平均が4.0以上あり、かつ全体の評定平均が4.0以上あること。
普通科	全体の評定平均が4.0以上あること。

4. 判定材料

- (1) 内申点
- (2) 推薦申請書、調査書の総合所見等による実績点
- (3) 面接

5. 審議事項（各学科共通）

次の(1)～(3)のいずれかに該当する者を審議事項該当者とする。

- (1) 3カ年を通して「無届欠席」が6日以上ある者。
- (2) 3カ年を通して教科の評定に「1」がある者。
- (3) 問題行動の記載がある者。

6. 参考事項（各学科共通）

(1) 帰国子女については、判定において可能な限り配慮する。

※ 但し、帰国子女とは、「海外または日本国主権の及ばない地域において、継続して1年以上教育を受けた者で、かつ、志願時点で帰国後2年以内の者」をいう。

(2) 長欠等、自己申告書の提出のある者については、各圏の審議において、その内容を確認し、不利益にならないようにする。

7. 判定方法（各学科共通）

判定は、4の(1)～(3)を材料に、総合的に行う。

8. 自己表現・個性表現のランクの目安

(1) 自己表現

	A：文化活動	B：スポーツ活動	C：社会活動・ボランティア	D：資格取得等
1 ラ ン ク	【県代表レベル】 ◆九州・全国大会に出場 ◆県レベル大会で最上位 ・吹奏楽・マーチング等 派遣あり：金賞派遣 派遣なし：金賞 ◆県代表として上位大会へ 出場・出品	【県代表レベル】 ◆九州・全国大会に出場 ◆県大会で上位 個人→4位以上 団体→2位以上 ※リレー・ペアは個人扱い ◆（個人5位～団体3位～でも） 県代表として上位大会へ派遣	◆ボランティア等で県・九州・全国の賞を受賞	【高校卒業レベル】 ◆英/漢/数検定 2級以上 ◆中国語検定 3級以上 ◆HSK 検定 3級～6級 ◆日本語ワープロ検定 準1級以上
2 ラ ン ク	【地区代表レベル】 ◆県内大会で最高位に次ぐ賞 を受賞 ・吹奏楽マーチング等 派遣あり：金賞派遣無 派遣なし：銀賞 ◆地区大会で上位入賞	【地区代表レベル】 ◆県大会 個人→5～8位 団体→3～4位 ◆地区大会で上位 個人→4位以上、団体→2位以上 ※リレー・ペアは個人扱い ◆（個人5位～団体3位～でも） 地区代表として県大会に出場	◆ボランティア等で地区・市 町村の賞を受賞	【高校在学レベル】 ◆英/漢/数検定 準2級 ◆中国語検定 4級 ◆HSK 検定 2級 ◆日本語ワープロ検定 2級・準2級
3 ラ ン ク	【学校代表レベル】 ◆地区大会出場・出品 ◆学校代表として各種コンク ールに出場・出品 ・吹奏楽・マーチング 派遣あり：銀賞以下 派遣なし：銅賞以下	【学校代表レベル】 ◆各種試合に出場 （部活動大会・地区陸上等）	◆学校生活または地域 でボランティア活動 等を精力的におこな った。	【中学卒業レベル】 ◆書道・空手など 各流派段位保持 ◆英/漢/数検 3級 ◆中国語検定 準4級 ◆HSK 検定 1級 ◆日本語ワープロ検定 3級

(2) 個性表現

下記の①～④の各分野の内容・表現方法等を自己表現のランクを参考に評価する。

- ① 音楽、美術及び書道などの芸術分野
- ② 文芸及び研究などの分野
- ③ 舞踊、創作ダンス及び手話などの身体的活動を伴う分野
- ④ 留学などの体験的活動を伴う分野